

ナノチューブで 超電導現象確認

青学大など、用途広がる

「スナー効果」をセ氏零下二五三度で確認した。マイスナー効果は、超電導体が磁力線をはねのける現象で、磁石を近づけると反発する。電気抵抗がゼロになることと並んで超電導に特有の現象。さらに改良すれば、超電導現象が起きる温度が高まる可能性もあるという。

ナノチューブは形状に

青山学院大学の春山純志准教授らは、東京大学、名古屋大学と共同で、代表的なナノテク素材のカーボンナノチューブ（筒状炭素分子）が超電導現象を起こすことを初めて確認した。超電導の証明になる物理現象を確認した。

同准教授らは、「マイ

成果。縁体に分けられる。研究者の間では超電導体にもなる可能性が指摘されていたが、決定的なデータはなかった。超電導の性質が加わったことで活用できる範囲も広がるとみている。科学技術振興機構のプロジェクトの